

東 音読教室

かつちん玉祭り

毎年二月二十六日に行われる矢田町、六所神社の大祭  
は「かつちん玉祭り」といわれ境内には露天が並び、

多くの参拝客で賑わう。

白・赤・青・黄の飴を丸く練り固め、棒の先につけた菓子  
は、かつちん玉と言われ、祭り当日にしか売られない。

かつちん玉の由来は、諸説ある。

竹の棒に藁束をくくりつけ、火をつけたものを持って  
暗い森に入ってしまった、その松明をかたどったものだと  
も、赤ちゃんのへその緒をかたどったものだとも伝えら  
れている。また、子どもが飴の硬さを比べるため、ぶつ  
けあいをした音からとも言われている。

神社の祭神は、イザナギノミコト・イザナミノミコ  
ト・ウガヤフキアエズノミコトであるという。

「昔、ウガヤフキアエズノミコトの母の豊玉姫が、  
一羽の鳥が落としていった丸くて白いものをなめると、  
たちまち安産された。」という伝説に由来して、安産の  
神とされている。

ずっと昔、ある高貴な方がこの社の森で男児を出産  
むかし こうき かた やしろ もり だんじ しゅっさん  
 し、ここのわき水で産湯を使ったのが二月二十六日であ  
みず うぶゆ つか さいじつ った  
 ったので、その日を祭日にしたと伝わっている。  
さいじつ った  
 いつのころからか、鳥の落とした丸くて白いものを  
とり おと まる しろ  
 飴になぞらえ、ヨシやタケの先につけて祭日に売るよう  
あめ さき  
 になった。

戦前には、神社近くの飴屋で、重さ約十五kgの大きな  
せんぜん じんじゃちか あめや おも やく  
 かつちん玉を作って、氏子総代を先頭に、神官、来賓の  
だま つく うじこそうだい せんとう しんかん らいひん  
 並ぶ、かつちん玉行列があった。また氏子農民が競って  
なら だまぎょうれつ うじこのうみん きそ  
 お供え物をした投げ餅が呼びものになっていたようだ。  
そな もの な もち よ  
 地元では、この祭りが済むと春になるのだという。  
じもと まつ す はる



『ひがし見聞録』 東区制100周年記念行事実行委員会／編 2008  
 『東区の歴史』 東区の歴史編さん会／編 愛知県郷土資料刊行会 1996  
 『郷土の祭』 愛知県小中学校長会／編 愛知県郷土資料刊行会 1971